

神山神社だより

平成29年12月
20号

■はじめに

今年も例年に劣らず雨の多い年となりました。十月初め頃までには無事、稲刈りは終わりましたが野菜等の作物に随分と影響が出たのではないのでしょうか。秋の季節になると良く思い出されるのが父や祖父が昔、近所の山できのこを多く採っていたことを思い出されます。まつたけ、ろうじ、しめじ、いくち・・・。
しかし今ではきのこもほとんど無く、見に行きたくても熊や猪が出るからと山に行けず、かわりに獣の対策をしなければならなくなりました。神社の境内も猪が出没しており枯れ草や枯葉が堆積しているところをまるで耕運機が通ったように掘り返しています。ときには斜面を崩しており、立木に影響が出るのではないかと心配しています。十年位前まではこんなことは無かったのですがやはり地球規模の気候変動に拠るものと危惧しております。



■伊勢神宮参拝旅行

来年の新春伊勢参りの参宮旅行は一月十九日(土)二十日(日)に行うこととなりました。初日は外宮・内宮・猿田彦神社に正式参拝して二日目は熱田神宮・げんきの郷(愛知県大府市)に行くことに決定いたしました。福岡区の旅行人員は八十名を目標に募集いたしております。同級会のグループや夫婦連れの方が多く参加されますし、今回は旧福岡の中の当番地区になっておりますので歌や踊りに覚えのある方の参加もお待ちしております。

■巫女アルバイト募集

元旦から三日まで神社でお守り・神札・おみくじの頒布(ハンブ)を行います。その間、お手伝いを行っていただけ的高校生以上の女性を募集します。

募集人員 二名
期間 一月一日〜三日

九時〜十五時

アルバイト料 一万五千元
連絡先 宮司 深谷耕平
TEL 0573-72-2892



■大祓い

十二月三十日(土)十四時

神社の祭りであります 大祓い式を執り行います。毎年六月と十二月の三十日に大祓い式がありますが十二月の大祓い式を「年越の祓」と言って一年間の穢れを祓い清めるお祭りです。

生活の中で知らず知らずのうちにいろいろな罪穢に触れます。悪事を働くことだけが罪穢ではありません。嘘をついたり、人を憎んだり、怒り、嫉みなども罪穢となり、罪穢が体に溜まってくると、身体の中の氣力とか元氣の元である「氣」が衰えます。「氣」は、まさに生命のエネルギーそのもので衰えれば「氣」が枯れる【これが「穢(けがれ)」である。それを祓い清めることによつて、枯れた「氣」をよみがえらせ、清らかな氣持ちで、活力あふれる生活を再開する。それが「大祓い」の意義です。

神山神社では毎年、氏子の皆様の穢れを人形代(ひとがた)に移して神社で

その人形代をお祓いしております。



人形代にてお祓いをお受けになる方は氏子総代さんにて人形代をお配りいたしますのでぜひ参加の程、宜しくお願ひ致します。

■お神札とお守りの頒布

お神札には、伊勢の神宮のお神札である「神宮大麻」や神山神社で発行されるお神札があります。「神宮大麻」は、「天照皇大神宮」の神号に神璽(神宮のおしるし)が押されたもので、神社を通じて氏神様のお神札と共に各家庭に頒布されます。

お神札やお守りはどちらも神さまのお力を戴くものですが、お神札は自分の家の神棚でお祀りして家内をお守り戴くもの、お守りは常に身に付けて神さまのご加護を戴くものです。一年間お祀りしたお神札は年末に神社に納めお焚き上げをします。そして新しいお神札を受けます。お守りについても同様ですが、願いが叶うまで身につけて

も差しつかえありません。

お神札やお守りをたくさんもっているとお心配してしまうのが、神さま同士がケンカしてしまうのでは、ということ。でも、大丈夫です。八百万神という言葉があるように、日本には多くの神さまがいらっしやいます。神さまは、それぞれの御神徳をもって、協力して私たちを守ってください。

榊山神社では予め神前にて頒布式を執り行い、氏子総代さんを通じてお神札を各家庭にお配りいたします。

お神札を受けていただき新たな年を迎えましょう。なお、各種お守りについては元旦の深夜0時から正月三ヶ日間神社にて頒布いたしております。お参りの際はお立ち寄りください。

■ 厄祓い

厄祓いとは古くより日本に根付いている風習ですが特に厄年の年齢になるとその年の一年間は注意が必要と言われています。女性の数え年三十三歳、三十七歳は子育ての一番たいへんな時期に当たります、また、体の変調をきたす時期だとも云われます。男性の場合は数え年の二十五歳、四十二歳、六十一歳で社会生活に悩んだり、家督を継ぐ時期であったり、家庭内の役割を終える時期であったりします。特に四十二歳は語呂あわせで「死に」と言い体の事に注意しなければ

なりません。統計的に見てもこのようなことが起こる年回りと云えます。厄払いしないで悪いことが起こったら、あなたはきつと『厄払いしなかったからだ』と言うでしょう。厄払いして悪いことが起こったら、あなたはきつと『厄払いしたからこの程度で済んだんだ』と言うでしょう。厄払いしないで無事過ごせたら、あなたはきつと『運が良かっただけだ』と言うでしょう。厄払いして無事過ごせたら、あなたはきつと『厄払いしたおかげだ』と言うでしょう。つまり、ご祈禱を受けることにより、不安を解消することが出来き、厄年を無事乗り越えられますようにと祈ることが大事なことでないでしょうか。

榊山神社でのご祈禱申し込み

連絡先 宮司 深谷耕平

TEL 0573 - 72 - 2892

■ 建設委員会より報告

前回の神社だよりにご報告させていたいただきました榊山神社社務所建設委員会を立ち上げました。氏子総代さんを含め、委員会の皆様方と数回に亘り、会議を行ったところ、社務所建設を行う方向で執り進める事となりました。懸案であり、資金調達につきましては各地区に対して協力金の依頼を行い、個人並びに企業・商店に対しては寄付金をお願いする

次第です。そして期間については最長五年計画で進めることとなりました。困難な、お願いだと重々承知しておりますが、今の社務所が建てられてより八十五年経過しており、耐震化もされておらず、利用も制限せざる得ない状態です。また、現在ある氏子会館の祖霊舎についても後数年もすればすべて埋まってしまいます。その為、新しくする社務所に移行します。多くの氏子の方々に自由に利用できる施設とすることを目指していますのでご理解いただきますようお願い申し上げます。

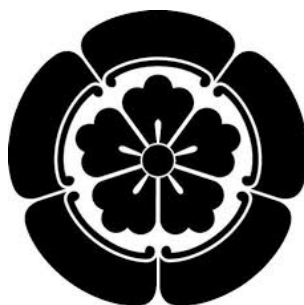
■ 歴史探訪

榊山神社に残っている古文書を今年に入り調査を始め、例大祭に行われる「たき祭り」について遠山史料館の千早先生の協力の下、取り纏めを行いました。

古文書の中で言い伝えによる物と、事実に基づくものと分けて調査し、事実を主体に纏めました。特に本殿、拝殿修理の願状や神社取調書に注目し1541年には既に今の地に神社が建立されていたことが分かります。さらに1773年以前より「たたき祭り」が行われていたことも判明致しました。そして何よりも苗木藩（遠山家）の守護崇敬社として1630年頃より明治に入るまで毎年、大祭の為の寄進があったことが判ります。更には、本殿、拝殿修理には苗木藩に願状を出して、いくらかの金子や穀物をいただ

ていたことも判ります。このように古くから苗木藩（遠山家）とはつながりが古くこの地方の歴史を語る上で榊山神社は重要な史跡でもあると言わなければならない。

☆ 榊山神社社紋



榊山神社の社紋は「木瓜紋（もつこうもん）」です。この社紋は主に祇園社で使われておりその代表の神社が京都の八坂神社で御祭神はスサノウノミコトです。江戸時代まで榊山神社は牛頭天王社と呼ばれていたことからこの紋が使われています。ではなぜ牛頭天王社と呼ばれていたかは元弘・建武（1331年から1334年）の鎌倉時代 後醍醐天皇の皇子宗良親王がこの神社を崇敬し「総社祇園牛頭天王」の八字の扁額を奉られた事によりです。

「謂れではないが、定かではない」
織田信長もこの紋を家紋として使っていた

※牛頭天王（神仏混合の神で薬師如来や須佐之男命と同一）が祇園精舎（インドの寺院）の守護神とされていた